

基幹労連シニアクラブ・ニュース

基幹労連退職者の会事務局

2016/10/13

第 31 号

組織の拡充・活動強化をめざしていくことを確認

シニアクラブ第 5 回総会を開催（10/6）

基幹労連退職者の会第 5 回総会が、10 月 6 日（木）宮城県仙台市において、総会構成員である 37 県本部中 32 県本部の退職者組織の代表、シニアクラブ本部役員に加え、来賓、基幹労連中央本部役員、県本部事務局長の参加を得、合計 93 名で盛大に開催されました。



総会では、神奈川県本部退職者の会の鈴木武雄会長を議長に選出し、宮園哲郎会長からは各県本部の退職者組織に対し、組織拡大と運営の充実・強化に向けた取り組みの要請を行うとともに、「シニアクラブとしての今後の組織運営のあり方について検討を行いたい」との挨拶がありました。

総会の審議では、昨年 11 月の第 4 回総会以降の活動経過と決算・監査の報告承認を受けるとともに、各地方ブロックを代表して 6 つの県本部退職者の会から、それぞれの活動報告が行われました。また、熊本県本部の東孝之会長からは、シニアクラブの地震発生後の取り組みに対する感謝の言葉が述べられました。

決定した 2017 年度の活動計画の特徴点としては、①組織の拡大、運営の充実に関し、具体的な目標を設定して活動を展開していくこと、②活動の前進に向け、来春も地方ブロック懇談会を開催すること、③退職者連合の地方活動に対しても各県の実情に即した内容で連携していくこと、④各種選挙に基幹労連と連携した取り組みを進めること、などです。



議長・神奈川県退職者の会鈴木会長

「組織拡大・運営充実と今後のあり方」の議論を深めていきたい

宮園哲郎会長の挨拶（要旨）



昨年の総会において最重要課題として取り組むことを確認した7月の参議院議員選挙は、残念ながら「とどろき利治」を当選させることができず、誠に遺憾であり、痛恨の極みである。私ども退職者・OBも含めた「オール基幹労連」の力不足といわざるをえない。結果は結果として厳粛に受け止めつつ、各県退職者組織の皆さん方に改めて厚くお礼を申し上げ、現役の頑張りにも敬意を表す。参議院比例区選挙への今後の対応については、基幹労連の方針に沿って対応していく。その過程で施行される各級選挙について、現役と退職者との絆をさらに強め、オール基幹労連としての組織力を強化していかねばならない。

シニアクラブの活動の主体は各県本部退職者組織であり、組織ごとの歴史や組織形態の違いをふまえて、引き続き、各々の組織拡大と運営の充実・強化に向けた取り組みを要請する。あわせて、シニアクラブとしての組織運営のあり方、「幹の会」主導の役員体制の今後のあり方についても、ブロック懇談会の場などを活用して議論を深めていきたい。

「活き活きと安心して暮らせる社会の実現」をめざし、中央・地方の退職者連合の活動に積極的に参画していく。政策実現に向けた高齢者パワーの結集や、退職者連合の組織拡大といった観点からも、県退職者連合に未加盟の組織においては、加入に向けた前向きな検討をお願いしたい。

OBの意気込みを、若い世代につないでいきたい

基幹労連操谷孝一副委員長の挨拶（要旨）

残念ながら「とどろき利治」を国政に送ることが叶わなかった。現役がしっかりしなければとの思いで頑張ってきたが、組合員全体の取り組みとすることができず、力及ばなかった。折れた心そのままではなく、再構築しなければならないと思っている。今後の取り組みについては、総括を踏まえて、シニアクラブのご支援もいただけるようにすすめたい。

基幹労連結成14年。今年の役員体制は、連合との期合せのため1年の任期となる。日本の政治・経済は行き詰まり、先行きの不安を抱えている。我々は課題をあげるだけでなく、結果を出さなければならない。基幹労連は、日本の中で基幹的役割があると考えており、その役割を果たせるように、将来に向けて確たるものとしていけるように、現役としてしっかり取り組みをすすめたい。

いま職場では世代交代の波が来ており、労働組合にも若い人が多く参加してきている。OBの皆さんの意気込みを若い世代につなぎ、ともに課題にチャレンジしていきたい。





社会保障制度改悪反対のための具体的な行動を展開

日本退職者連合の阿部保吉会長の挨拶（要旨）

各県の退職者連合の活動には、歴史的な経過もあって、皆さまがご指摘のように官公労的体質の強いところがあるのは事実である。しかし、役員も若返り、考え方も相当変わってきているので、未加盟の県本部組織には、是非参加していただきたい。

参議院選挙に関し、連合神津会長が「サンデー毎日」に投稿しているコラムのように、686万人の連合組合員は、普通の国民、市民の感覚の人たちであり、特別に意識が高いわけではない。こうした現実を踏まえて、選挙に取り組まねばならない。連合としては地域単位の体制づくり、民進党にも地方議会に影響力を発揮できるような政党に成長してほしい。

自民党は国会の3分の2を占め、安倍政権は憲法改正をすすめようとしている。防衛費の調達のためにどの予算を削るかが課題となり、社会保障費に手が付けられる。年金積立金は勝手に使われ、高齢者いじめの後期高齢者制度、介護は「制度あって保険なし」。社会保障制度改悪反対のための具体的な取り組みをすすめていきたい。

発言をいただいた各県の代表者



福岡県・鞆野幹事



広島県・中村会長



京都府・郷田県本部事務局長



長野県・平澤氏



茨城県・篠塚県本部事務局長



福島県・石川会長



熊本県・東会長

基幹労連が第14回定期大会を開催 ～今期は1年任期で～

9月8～9日、福岡県において、基幹労連の第14回定期大会が、「ゆるがぬ好循環 確かな歩み」をスローガンに開催され、来賓として出席したシニアクラブの宮園会長が壇上で紹介されました。

今大会では役員改選が行われ、工藤中央執行委員長を軸とした新執行部体制が選任されました。今期は、連合との期合わせを行うことから、1期1年間の任期となっています。そして、シニアクラブを担当する事務局次長にはIH労連出身の渡辺強氏が選任されました。

工藤委員長の挨拶の中から、第24回参議院議員選挙に関する部分の要旨を以下にご紹介します。



「まずは第24回参議院議員選挙への取り組み対し心から感謝申し上げます。一方で、比例代表で『とどろき利治』と書いていただいた108,522票は、組合員の4割程度であることは厳然たる事実であり、当選に繋げることが出来なかった責任を痛感しています。残念ですが、今回の結果が、基幹労連の現時点の組織力量であると受け止めなければなりません。

今後、総括を行っていくこととなりますが、まず、我々は組織内国会議員の必要性を浸透できたか。政策実現活動の重要性を浸透できたのか。各種活動をしっかりと展開できたのか。そもそもの戦略は正しかったのか。職場組合員の共感を得て、納得のいく運動が展開できたのか。この3回にわたる政策実現に向けた取り組みの差は何だったのかなど、項目毎に厳密に総括していかなければなりません。

特に、「組合員とそこご家族の安心・安定のためには政策実現活動が不可欠であり、そのためには産業のことを熟知した組織内議員が必要である」との産別の主張が、職場第一線の組合員にまで届いたのかは十分に検証しなければなりません。個々の取り組みと結果に差はありますが、総じて見れば、我々は職場に対して役割と責任を果たし得なかったということです。いずれにしても真摯な総括を行ってまいります。」

日本退職者連合の全国高齢者集会在開催されました

日本退職者連合の2016全国高齢者集会は、全国から会員2000名が参加して9月28日、午後文京シビックホール（都内文京区）で開かれました。基幹労連シニアクラブからは関東地区の退職者の会役員、幹の会関東メンバーの方々が参加しました。

集会后、「生き生きと安心して暮らせる社会をつくろう」と、都内をデモ行進して



訴えました。

今年の集会の特徴は、退職者連合と連合の代表が共に熊本地震救援カンパや参議院選挙闘争で培われた現退連携にふれ、「連携を強化して政治の流れを変えよう」と訴えたことです。また「行動する退職者連合」を全面に出した基調報告も運動面の強化をはかる上で中央・地方を貫く行動指針となりました。

主催者を代表して挨拶した退職者連合の阿部保吉会長は、安倍政権が進める医療や介護保険制度の改悪の動きに警鐘を鳴らすとともに、年金積立金の景気対策としての株式投資を即時中止するよう求め、「高齢者が心豊かに暮らせる社会を目指そう」と訴えました。また熊本地震救援カンパや参議院選挙闘争での現退連携の取り組みについてふれながら、「組織拡大と連合との連帯を強化するとともに、総選挙闘争に全力で取り組む」との決意を表明しました。

来賓で挨拶した連合の神津里季生会長は、参議院選挙での取り組みについて触れ「連合候補必勝のために全国津々浦々で現役に勝るとも劣らないご活躍をいただいたことに私の立場からも改めて敬意を表したい」と退職者連合の取り組みに感謝を述べ、「引き続き、現退連携して政治の流れを変える取り組みを強めたい」と決意を明らかにしました。

